



ENJOY ROTARY!



ロータリーを楽しもう!

会長 高橋良士 幹事 佐々木 喆彦 クラブ奉仕 佐藤 衛 職業奉仕 忠鉢 徹 社会奉仕 斎藤 昭 国際奉仕 塚原初男 青少年奉仕 加藤 賢

出席報告:会員 87 名 出席 57 名 出席率 69.86 % 前回出席率 73.97 % 修正出席数 74 名 確定出席率 90.41 %

会長報告

高橋良士君

9月は、青少年活動月間で御座居ますので、本日はインターアクトに大変御熱心で、しかも御理解をおもちの鶴岡西高の東山先生と舟腰修君をお招きいたしましてスピーチをお願いすることといたしました。東山先生には御多忙のところ御来席いただきまして厚く御礼申し上げます。

主催及び企画は青少年奉仕委員会で御座居ます。皆様方の御静聴をお願い申し上げます。

山形R.C・山形西R.C

④ 9/18 1989年版手続要覧 RI日本支局 2 ; 例会変更

八幡R.C 9/20(水) あゆ例会のため

場所 八森荘

点鐘 18:30

登録料 3,000円

◎ ゲスト紹介

秋野 忠君

・東山昭子先生

県立鶴岡西高等学校教授

著作に「庄内の風土・人と文学」

・舟腰 修君

鶴岡西高等学校二年在学中

山形県企画調整部主管

県下20名の代表として

山形県青少年大使 コロラド州へ派遣

幹事報告

佐々木 喆彦 君

1 ; 来信・通知

① 9/13 年次計画・報告書・会報到着
遊佐R.C

② 9/14 新人会員セミナー参加に対しての
お礼状・竹内分区代理から

③ 9/18 会報到着

ENJOY LIFE

釣りの余話

中江 亮

若い頃は釣りに凝った私である。或る夜中、酒田南防波堤で仲間と静かに構えていた時、遠くから悲鳴に近い声がきこえた。“助けを求める人の声だ”と言ったが“どうせボラを釣った酒田衆の声だろう”と仲間が言う。腑におちないので声の方へ歩きヘッドライトで照らしたら案の定、海に人が落ちていた。仲間と命がけて助け上げたところ“竿が流された探してくれ”とズズーしい。こちらが片付けしている中に無言で立ち去った。遠くから自転車のペダルの音がする。

又或る日、加茂の沖荒崎で“ブッコミ”の練習をやっていたら大物がかかった。仲間を手伝ってもらって引き上げたら尺五寸位の立派な黒で急いで箱に入れようとした途端“おい旦那その鯛俺が先程外した奴だ俺によこせ”と言う。仲間が“おいオヤジそう言うお前の魚の印しは名前は”と言ったらスゴスゴ立ち去った。又或る日中、同じく沖荒崎辺を岩から岩へと渡っていたところ小さな入江に独りの釣人を見つけた。良さそうな場所だと竿をおろした時“おいあっちへ行け”と怒鳴られた“境界線が見えないか”と続ける。よく見ると岩に白い線がずっと引かれていた。“朝からここで底まきをずっとしているんだぞ”と又怒鳴る。

エンジョイライフ

若い世代の体験と成長

東山 昭子氏



彼が応募した事業は、参加者20名中男子が2名で、女性が18名でした。男子がこういう場にもっと積極的に参加していく、参加させていくという体制が必要なのではないかと思っています。

最初、舟腰君が出かける時にも、行く前は、あいさつなんかははっきりしない面がありまして、日本の代表として大丈夫行けるのかなんて、大分ハッパをかけていたところがありました。帰ってきた日は、さすがちゃんと「このように元気に帰って参りました」という風に、すっきりあいさつが出来るようになって帰ってきました。

やはり、いきなりでも良いから、こうした体験をさせて育ててくださるということが必要なのだと思います。今日も「僕いいよ」とか云っていたんですけど、こうやってお話をさせていただく機会をもうけさせていただきました。

体験して成長していくという、成長率の良さは、こういう若い時が一番大きいように私は見ています。ですから学校教育の中だけで出来ない部分をロータリーさんなどの中では、ゲストとして何人かお呼びいただいて、一度やらせてもらおうと、話し方でも何でも、ここへ立つあるいは話す言葉自体も選んで話せるようになります。あるいは、交歓会という形で、前に西ロータリーさんとはソフトボールであるとか、ボーリングとかいうことで、お集まりさせていただいたことがあります。

若い子は、時間が割とルーズなものですから、時間を守ってきちんとやる、あるいは呼ばれて大きな声で「ハイ」という返事が出来るとか、出来ないとかいう部分も、やらせていただいて、その時的確なご助言をいただくと素直さだけは、いま若い分、まだまだあるという風に私は見ております。ですから、どうしようもないような形の部分でも、今ある中から更にもう一步ということ

見ていて一つずつ、今の段階からもう一步という形で若い人達を育てていただければありがたいものだなあとこの風に私は思っております。

もう一つだけ、今外国へ行って、初めて日本というのを逆に見る目を得たようなことでありましたけれども、そういったようにわが住む街についてのが、割と子供達、分からないでおります。私共も分からない部分が多い訳ですけれども。

先程、秋野さんから、何かロータリアンの方に期待することということがございましたが、各お仕事分野で、第一線で活躍されていらっしゃる方々のお集まりだろうと思っておりますので、各職場での、あるいは各人の歩んでこられた人生経験の中から、にじみ出る部分のところを直接お言葉で若い人達に語っていただけるようなそういう機会を持っていただきたいと思っております。

鶴岡西高インターアクトの方は、只今斎藤みゆ子先生が担当しておりますけれども、各ゲストにスピーチをお願いいたしまして、学校の方に来ていただいて、クラブの生徒へ各仕事場でのお話、あるいは残り少なくなってきている戦争の体験談の一つにしても矢弾のなかをくぐり、重い車を引ながら大陸を切り抜けてきた体験などを生徒は非常に感激をもって聞きます。

なんとかそういう意味で自分の人生体験なり、あるいは、各事業の第一線で若い人に望むことというのを、直接お言葉で生徒に対し語っていただけたらありがたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。



体 験 報 告

船 越 修 君

7月25日(火)



朝7時に山形空港に到着した。昨日はなかなか眠れなかった。朝は早かったが苦にならなかった。初めての飛行機でみんなさわいでいた。まるでエレベーターの強いもののように感じた。やっぱり当然のように自分の英語力、そしてアメリカでの人との接し方、生活、暮らしていく仲間への不安、そしてそれに対してのある種の期待もあった。

飛行機では朝・昼・夜・朝・昼と約12時間の長い間で二日分も食事をしたようで腹がいっぱいだった。日付変更線を通して時間をあわせたが、体は日本時間なので、眠くて、だるくて大変だった。山形空港・羽田・成田・SF DENと空の旅を終え、day's Innというボルダーのホテルでのレセプションを終えた。各自の芸や自己紹介ホームステイファミリーとの対面があった。つかれていたが見るもの全て新鮮でこの日もやっぱり眠れなかった。ホームステイファミリーの人々はやさしくて、積極的な人々ばかりだった。ここでの不安の一つが消えた気がした。

7月26日(水)

昨日のレセプションのつかれが出る日だった。今日から本当のスケジュールの始まりなのに体がいう事をきかないので苦しい日だった。しかし“Ball”という人工衛星の会社をおとずれた時に消えてしまった。ここはNASAの下請のようだった、人工衛星をもって大きいのかと思ったが、けっこう小さいので驚きだった。ある程度の規模の大きさは知っていたがスケールがとてつもない。その後、ボルダーモールという商店街で地元の子供達とショッピングを兼ねて昼食をとる。何と300円位で日本の1000円位のピザ、又100円位で750mlはあろうかという位のジュースも飲めて感激した。

午後はセレスティアルシーズニングという茶工場へ行った。ハーブのにおいに日本人とアメリカ人の嗅覚などの違いがわかった。すごいハーブの

香りには正直いってまいった。

夕食はホームステイ先の友人ととり、映画BADMANNを見た、簡単な英語を使うのである程度わかった、自分でも耳なれしたのがわかる、それにしてもスクリーンが日本の倍以上あってア然とながめてしまった。

7月27日(木)

朝、家族と朝食をとる。コーンフレークとパン・ジュース・牛乳だった。食事は外人とみなさず、皆と同じ物をたべられた。でも朝異国の家族とともに食べる朝食もおつだった。

コロラド自然歴史博物館へ行き、恐竜の化石や生物全般の模型類を見た。又コロラドの四季を表わしたミニチュア模型を見て4月の砂漠に花が咲くのには驚いた。

その後、コロラド動物園へ行った。日本とは比較にならない程の大きさ、バラエティーの豊富さがうらやましかった。この辺の公園がまるごと動物園といった感じだった。でも他のよりは小さい方だということから驚き。

夕方、家の近くのプールに入った。ホームステイ先の子供達とあそんだ。他の家の子供達もいたが、やっぱり変な目で見る人はいなかった。家に帰って夕食をとり、フロの事を聞いた。こちらでは自分が汚れたと感じない限り入らないそうだ。入っても週に二度位だという。確かにあついの乾燥して汗一つかいていない。でも僕はいつシャワーをあびてもいいというのでシャワーをあびて明日の事を部屋を共用していた子供と話し、辞書を片手に説明してねた。

7月28日(金)

今日は朝からコロラド州政府の人々のレセプションがあった。コーヒーやジュース、ちょっとした食べ物もち、立ったまま話をしたりする。映画でよくある、パーティーの形でした。いかにもこっちの感覚でざっくばらんにできた。

その後デンバーの市役所や州議事堂へ行った。高く風格のある建物でした。そこから見るデンバー市内がとてもきれいで、とてもスモッグがあるようには見えませんでした。実際には公害問題で悩んでいる都市だそうです。

その足でそのままコロラド歴史館へ行き、開拓

者の道具・衣服・食べ物他の生活全般を見学し、バターを当時と同じやり方で作り、本当にパンにぬって食べた、これがけっこうおいしかった。

当時の開拓者をソドバスターズとって草や土をとりのぞく人といったそうです。

その後16番街でショッピングをし、KCNC・TV見学にいった、ここはYTSと姉妹協定をしている所で山形へ数回きているそうです。

夕食はホームステイ先のおじいさんの家でステーキをたべた、そのおじいさんの家はお金持ちの牛肉屋で吉野屋へ売っていたそうで、日本の写真や物がいっぱいありました、吉野屋の社長と一緒に写真もありました、なにか日本の写真や物を見て、とってもなつかしくて、それでいて何だかわかりませんが日本の誇りがもてました。

7月29日(土)

今日はホストファミリーと一日一緒に居る日です。朝皆ゆっくり寝た。起きたあと家の子供と庭先へ出て机とイスがあるので、そこでオセロをやった、天気が良かったのでなんともいえない、いい気持ちだった、日本だったら近所の人がじろじろ見ておちつかなかったと思う。

昼頃、クロノローズモールという商店街でショッピングに行くことになって、家族と一緒に車に乗った時、手すりはずれてこわれてしまいました。僕が乗った時なので、父親が笑って「私の大切な車になんてことをするのだよ」と言うので僕は、あれ、笑っているけど本当は怒っているのかな？と思っていたら隣の子供が「前からこわれてんだから、ほっとけほっとけ」というので冗談だっということがわかりました。又、買い物する時も子供達が冗談ばく「おい！こいつ(父親)置いてった方がよくない？」と言うので僕「いい考えだ！」といったら「修、何てことなんだ」といっておっかけられ、つかまえられて、もちあげられてふりまわされました。この人達は客として僕をあつかわず家族として接してくれて、とてもうれしかったし、楽しかった。変に気をつかわず自然に家族同様の仕事や言葉をつかってくれたのが本当にうれしかった。

7月30日(月)

ホストファミリーと別れの日でした。今日は移動日で次のホストファミリーに会わなくてはなりません。せっかく慣れて仲良くなったのに、しかも僕の場合家族の末子の女の子が誕生日で朝から楽しかったのに空港では皆泣いていた、僕も例外ではなかった。水を大切に使う人達だった。

次のホストファミリーはアスペンの人々だ、ア

スペンは俗にリッチな街で有名でした。別荘を金持ちが多くもっているそうです。ここは富士山よりも高い所とあって空気がうすかった。

空港からバスでアスペン高校へ行き学生達と一緒にコロラド川のボートでの舟下りをした。すごい急流で川に落ちそうになる所もあった、日本にいたら味わえない経験だった。

アスペンのファミリーと一緒に夕食をたべたが子供は二人のうち一人は日本へホームステイ中だし、もう一人は無口だし父親は朝はやく夜おそいので話しにくいというのかなじめなかった、最初の家族に慣れすぎたせいかもしれない

7月31日(月)

午前中、アスペンの街へ買い物に出かけた、リッチは街だけに物価が他とくらべ高いことに気付いた。

又、マイアミバイスという日本でもやっていた番組の主人公の家もここにあった、ここは道がゴチャゴチャしてて、地下に店があったり、小道の奥に店があったりして買い物しづらかったが街全体が美しかった。

道路の真ん中に沢が流れてあって、木とベンチがあったゴミはタバコの吸いがら一つなく、公園は家族でいっぱい微笑ましかった、ゴンドラもあってのんびりした感じだった。ゴミをゴミ箱に入れるという、あたりまえがあたりまえでなくなっている日本ではありえない風景だった。

午後はルーディレイクで泳ぐ人は泳ぎ、又山をハイキングした山も空気がすんでいてとてもきれいだっ。

夜キャンプファイヤーをして歌をうたった時、日本に少し帰りたくなって泣きたくなった、日本の歌のせいだったと思う。キャンプファイヤーの火をかこんで山や湖や火もみんなと一体化した気分になった。

8月1日(火)

今日は遅くまで寝てた昨日のつかれのせいだろう。おきた時釣りに出た、ルアー釣りはじめてなのでむずかしかった。こっちではエサを使った釣りはしないというのだ、魚がいるのに釣れなかったのでくやしかった。

昼はメキシコレストランにつれていってもらった。初めてする味に恐怖した、何と表現したらいいかわからない味に顔の形も変化しかねた。ただ言える事はカルフォルニア米はおいしくなかった、ばさばさしてて玄米のようだった。

午後、期待していたホースバックライディングという馬のりをした。教えてくれる人がついてく

れるのかと思ったら、乗ったとたん6～7面の散歩に出させられた。恐ろしくて泣いている子もいたが動いているうちに慣れてきてコントロールできるようになったのでうれしかった、出来ればもう少し乗ってたかったし、もう一度行きたかった。その後新聞社へ行ってインタビューされた、主にこの感想だった。

夜はみんなで一つの家へあつまってのパーティー、聞えるピアノ、肉を焼く音、笑い声、アメリカのパーティーそのものだった。アメリカらしいというか、僕が思っていたアメリカがここにあった。陽気な気分になって夢のように思え、このまま時がとまってほしかった。

8月2日(水)

朝からロッキー山脈の一部に登った、空気がうすいのでとっても息苦しかった、途中で頭がいたくなつてうずくまってしまうそうだった。頂上付近は雨が降って冬のように寒くござえてしまうそうだった。皆同じで歯をガチガチいわせていた、昼食をみんな急いで食べ下りた、高山植物がきれいでみとれてしまい山の湖に落ちそうになったこともあった。鳥海山の2倍位の山なのでとってもつかれた。降りてきた時寒さから逃げられてホッとした。

3時頃帰ってきて公園に行った、近くの人に写真をとるのだから心よくひきうけてくれ「はい笑って」なんて大声で言うてくれてなんか人なつこくっていいなあと思った、この辺も日本とは違っていた。

夜はロデオを見て楽しんだ、流石に荒々しくそしてカッコよかった。興奮して見ていると今回最年少10才位の子がやってふり落とされ待っていた救急車で運ばれていったのはすごくショックをうけた。ロデオにはそこまで魅力があるのだろうかと思った、でも何らかの魅力は確かに感じた。

少しホームシックになったみたいで、はやく家へ帰りたくなつた。とっても自分の友人と会いたくなつて悲しくなっていた。そんな時にこちらの母親がそのことを心配してくれて笑わせようとして楽しい話をしようとするやさしさがとてもうれしく、少し涙を流してしまった。

8月3日(木)

アスピンのホームステイファミリーと別れる。あんまり馴染めなかったが、心のやさしさだけは忘れないと思った。いつか又来たいきれいな街だった。

今日は移動日でグランビーまでバスの旅で、途中の公園で昼食をとった。この場所本当に西部を

思わせる場所だった。だだっ広い道路に飲み屋が少しあって、ちょっと行くと岩山と砂漠のような草原、そして時折吹く風、馬にでも乗ったら似合うような所だった。

最後のホームステイファミリーと会った、この家にはバスケットのゴールがあるのでバスケを父親とやった。夕食はステーキ、やっぱりこっちの主食は肉やいも類なんだった。子供達がバイトから帰ってくるまで夫婦と話していた。母親の方は小学校の先生で、ゆっくり話してくれるので話がなんとなくわかった。その時TVに横浜の花火大会がうつってたのでなつかしく見るとYOKAHAMAと書いてあった、これは笑って説明するとやっぱり笑っていた。子供達が帰ってくると、車で一緒にボーリングとゲームセンターにいったコロラドでは16才で免許をもってるし、タバコも18才からだった。アメリカでは州によって異なるが少しうらやましかった。

8月4日(金)

グランドレイクの水位調整場に行った。西部の水の少ない地方に水をおくったりしているそうで、タービンは日本の日立製だった。水の中に建物のほとんどがあり普段はヘッドホンをつかわないと耳がおかしくなるほどの大きな音がするというのでした。

グランドレイクはアメリカの自然湖では一番大きいということだった。

昼はロッキー山脈に登り、今度はバスなので苦ではなかった。バスから降りるとリスがよってきてかわいかった。自然に山にいるリスを見たのは初めてだった、でもリスの交通事故が多いのは観光客がえさをやるためだから、えさをやってはいけないと聞いた。夕方、ホストファミリーの子供とその友人と夕食をとったが、ピーマンを食わないのやりとりが楽しかった。帰って僕の部屋は地下室なのだが、そこのネコが集まってきて眠れなかった。

8月5日(土)

今日で長いようで短いホームステイ生活が終わる日だった。ウィンターパークへ家族一緒に行つて、山寺のようなアスピンスライドというものにのつた。全長が長くて、日本とはスケールがちがっていた。そのあとグランビーのミニチュアゴルフをした。一つ一つのコースに風景のうちの一つが作られているのだった、スコアはさんざんだったがコースをまわって楽しみながらグランビーを一周した気分になれるので楽しかった。

夕方、近くの別のホームステイファミリーと一

緒に合同バーベキューをした。ちょっとしたパーティー気分、みんなでこの歌をおしえてもらい一緒に歌った。人が多いと楽しい。もうこの夜がホストファミリーとの最後の夜だと思うといつまでもここへいて、みんなで歌っていたかった。3家族をまわってきたが、目に見えるものより見えないものを学んできたような気がした。

8月6日(日)

午前中は自由時間なので、これまでの疲れをとるためゆっくり寝ようと思ったら、寝過ぎて11時過ぎまで寝てしまった。そのあとグランドレイクでポートツアーをした。この日レイクではヨットレースの日でたくさいのヨットがあった。グランドレイクの周りには別荘が多く、色使いの激しい家や、日本風の家もあった。何かせっかくのグランドレイクに合わなくてアンバランスでした。

昼食を全てのホームステイファミリーと、とったまさに最後の晩さんだった。バスに乗り込みホテルへと向かった。バスへのるとき、もうみんなの顔は涙でぼろぼろだった。ホームステイファミリーと別れるためだけではなく、コロラドと別れることも含めての事だろう。みんなの顔は最初の頃より変わってきたと見えるのは、僕の気のせいではないと思った。みんなしっかりした顔だちになって、自分に自身のようなものを持ったようだった。

8月7日(月)

ホテルで目を覚まし、コロラド最後の朝を楽しみ、ここへ来てからのことを振り返った。人々との出会い、別れ、悲しかった事もあったけど見えない自分が見えてきた気がした。確かに自分にはプラスになれた手ごたえは感じました。異国の文化は確かに大切でしたが、異国文化を知る前に自国の文化を知っている事が重要だった。又大切な事は心だという事、言葉の違いも心で接すればわかってもらえた。何を学んだのかははっきりしなかったが、自分の意志、考えが異国の中ではなぜかはっきりし、見えなかったものが見えてきた気がした。今の高校生活での経験は一生のうちで一番重要なものだし、これからの自分をつくる上で、めったに出来ない事を体験できて、とてもうれしかった。これからもあちらの積極性を見習い、色々な事に参加し体験したいと思った。

委員会報告

親睦委員会

中沢 進君

来週の例会は4クラブ合同で27日(水)6:30~

となっておりますので、お間違いのないようにお願いします。

スマイル

斎藤 庄治君 去る9月13日鶴信理事長杯ゴルフコンペを開催した処、150余名の参加を得て盛大に行われたことに感謝して

石井 敬三君 サントリー文化祭10周年の集まりが先週大阪でありました。庄内では白應社と黒川能が招待を受け、三浦さんと私が代表して行って参りました。その折、三浦さんに大変お世話になりましたのでご報告いたします。

三浦 恒祺君 二人での彌次喜多道中、大変楽しい旅でした。

秋野 忠君 今日はゲストの東山先生、舟腰さんのお話をご熱心に拝聴いただきまして感謝申し上げます。それから、酒田ロータリー30周年記念事業の一環として前日ゴルフ大会がありました。私と荻原君と佐藤忠先生と3名参加し荻原君は準優勝で、スマイル預っていませんが私からさせていただきます。

佐々木 喆彦君 先日の酒田ロータリークラブ30周年に沢山ご参加いただきましてありがとうございます。二次会というご希望がありました。時間の関係で出来ませんでした。お詫びを兼ねて

酒田 R.C30周年

出席 15名

他ゴルフ 3名

ビジター

桜井 清君(鶴岡西R.C)

石黒 慶一君(鶴岡西R.C)

10月10日プログラム予定

休 会

本日の財団寄附金 ¥8,053円